

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道33号 <small>まつやまとかんじょうどうろ</small> 松山外環状道路インター線 <small>せん</small>	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：愛媛県松山市北土居町 <small>えひめけんまつやましきたといまち</small> 至：愛媛県松山市余戸南 <small>えひめけんまつやましようごみなみ</small>	延長	4.8km		
事業概要					
<p>松山外環状道路とは、松山環状線の外側に計画された環状道路で、松山IC、松山空港、松山港、FAZ等の広域交通拠点や地域開発拠点とのアクセス性向上、市内中心部へ流入する交通の分散を目的とした地域高規格道路である。</p> <p>松山外環状道路が開通されると、郊外からは市街地を通過せずに目的地への移動が可能になるため、市街地に用事のない通過交通の市内流入を減らし、市内の渋滞緩和が期待されている。</p> <p>松山外環状道路のうち、国道33号から国道56号間（4.8km）は、一般国道33号松山外環状道路インター線として、自動車専用道路部は国土交通省、一般道路部は国土交通省、愛媛県、松山市が協同で整備を推進している。</p>					
H16年度事業化		H2年度都市計画決定 (H15年度変更)		H17年度用地着手	
				H19年度工事着手	
全体事業費		532億円		事業進捗率	約60%
				供用済延長	0.0km
計画交通量		13,200～30,100台/日			
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (事業全体) 134/492億円		総便益 (事業全体) 609/609億円	
	(残事業)	事業費 ：122/481億円 維持管理費 ：12/12億円		基準年 ： 平成25年 走行時間短縮便益 ：480/480億円 走行経費減少便益 ：82/82億円 交通事故減少便益 ：47/47億円	
感度分析の結果					
【事業全体】交通量		：B/C= 1.05～1.5（交通量±10%）		【残事業】交通量	
事業費		：B/C= 1.2～1.2（事業費±10%）		事業費	
事業期間		：B/C= 1.1～1.4（事業期間±20%）		事業期間	
				：B/C= 3.9～5.7（交通量±10%）	
				：B/C= 3.8～4.5（事業費±10%）	
				：B/C= 3.9～5.2（事業期間±20%）	
事業の効果等					
<p>松山IC、松山空港、松山港等の広域交通拠点とのアクセス性の向上や、市内中心部へ流入する交通を分散することで、市内の交通渋滞緩和など、多様な整備効果が期待できる。</p>					
①円滑なモビリティの確保					
<ul style="list-style-type: none"> ・現道等の時間損失の削減が見込まれる ・国道33号の旅行速度が向上 ・松山市内中心部の渋滞緩和により路線バスの定時性が向上し、利用者の利便性が向上 ・松山ICから松山空港（第二種空港）へのアクセスが向上し、松山空港1時間圏域人口が増加 					
②物流効率化の支援					
<ul style="list-style-type: none"> ・松山ICと松山港（重要港湾）へのアクセスが向上 					
③都市の再生					
<ul style="list-style-type: none"> ・「愛媛県広域道路整備基本計画」で位置付けられた環状道路 					
④国土・地域ネットワークの構築					
<ul style="list-style-type: none"> ・地域高規格道路の整備区間指定あり ・日常活動圏中心都市（伊予市、東温市、砥部町）へのアクセス向上 					
⑤個性ある地域の形成					
<ul style="list-style-type: none"> ・大規模イベントである「H29年開催予定『愛媛国体』」のメイン会場である松山中央公園と松山ICを結び、円滑な交通を確保 ・主要観光地（松山城、道後公園）へのアクセス向上 					
⑥安全で安心できるくらしの確保					
<ul style="list-style-type: none"> ・周辺道路網の混雑が解消され、三次医療施設へのアクセス環境が改善 					
⑦地球環境の保全					
<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる 					
⑧生活環境の改善・保全					

- ・ NOX、SPM排出量の削減が見込まれる
- ・ 松山都市圏幹線道路懇談会において景観検討を展開

⑨その他

- ・ 他機関との連携プログラムに位置づけられるFAZへのアクセスを支援
- ・ H29年開催予定「愛媛国体」のメイン会場である松山中央公園と松山空港の円滑な交通確保

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

- ・ 松山都市圏道路整備促進期成同盟会より、積極的な整備促進について要望活動が続けられている。

愛媛県知事の意見：

- ・ 松山外環状道路インター線の再評価に係る「対応方針(原案)」案については異議ありません。松山外環状道路は、松山都市圏の渋滞緩和による観光の振興や地域産業の活性化等に資する重要な道路であり、インター線の平成28年度までの全線供用に向けた着実な整備をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

- ・ 「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・ 平成 9年 2月 松山インター関連 (松山IC~国道33号) L=0.5km 開通
- ・ 平成12年 3月 東部環状線 開通
- ・ 平成14年10月 (都) 千舟町古川線 部分開通
- ・ 平成23年 3月 (都) 千舟町古川線 全線開通
- ・ 平成23年 6月 松山外環状道路インター線 (側道部) L=1.3km 部分開通 (その他)
- ・ 平成17年 1月 松山中央公園 (松山市) に競輪場を移設
- ・ 平成20年 4月 大型ショッピングセンター (松前町) オープン

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・ 平成25年5月末で用地取得率約99%、平成25年3月末で事業進捗率約60%。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・ 平成25年7月時点の用地買収状況は、買収時期の関係で残っているJR四国所有地を除き、全て完了。
平成25年度 松山市北土居町~古川IC L=1.2km開通予定
平成26年度 市坪IC~松山市余戸南 L=1.8km開通予定
平成28年度 古川IC~市坪IC L=1.8km開通予定

施設の構造や工法の変更等

- ・ 今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造等の採用等、総コストの縮減に努めていくこととする。

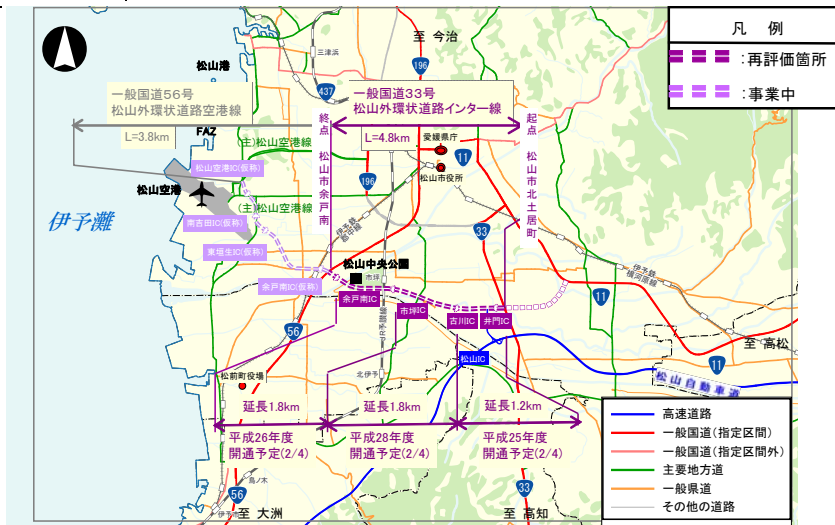
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・ 以上の事業効果等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。